

『罪に勝る恵みの豊かさ』

ローマ人への手紙 5:18~21

しかし、罪の増し加わるところには、恵みも満ちあふれました。(28節)

序]

先週は“罪の始まり”、今朝は“罪の広がり”について、ローマ書5章から学ぶ。しかしローマ5章は罪のこと以上に、罪を覆い尽くして余りあるキリストの救いの恵みが強調されている。

本]

I 罪の広がり

罪に関する連続する同じ表現が続く(12,15,17,18,19,21 記述省略)。これらの聖句の意味するところは「ひとりの人(アダム)」から始まって、時代を越え、環境を越え、すべての人間に広がったということ。先週“罪の始まり”について学んだ。今朝も創世記3章を開いて、先週ふれられなかったが、神の命令(創2:16,17)と悪魔の誘惑を受けたあとのエバの弁明(3:1~4)の微妙な違いに注目しよう。

①神は「木の実を食べてはならない」と言われたが、「触れてもいけない」とは言われなかった。これは彼女の中にあつた願望「触れるくらいいいじゃないの」という隠れた心理の投影だと言われる。

②神は「必ず死ぬ」と言われたのに、彼女は「死ぬといけない」と言った。その時、すかさず、悪魔は「決して死なない」と断言した。人生、あるいは日常生活の中で御言に対する態度が曖昧になると、悪魔はすぐに心に入り込み、間違つた選択をさせる。

II 恵みの豊かさ

①この恵みはイエス・キリストによって与えられた。(15,17,21)

「それにもまして」「なおのこと」が恵みの豊かさを示す。特に恵みはキリストの十字架によって示された。「ひとりの義の行為」(18)は恵みの賜物(15)。すなわち我らへの愛のギフト。

②この恵みは罪の支配を覆い尽くすもの(15,20「満ちあふれる」)。

罪と恵みの類似点は、両者とも人類に「広がった」という点。相違点は、神の恵みは広がっただけでなく、満ちあふれた。

③この恵みは罪人を義人とするだけでなく、新しく生まれ変わらせる。(18,21「命」)

「永遠のいのち」(21)とは“神のいのち”のこと。これは人間が罪を犯したゆえに失つたもの。キリストを信じた時、このいのちを頂くから神との交わりが可能になる。これは神が本来造られた人間の姿に回復されることを意味する。パウロは恵みが罪を覆い尽くすほど支配したことを強調した。

結]

主の来臨の目的は「羊がいのちを豊かにもつため」。ただ、いのちを頂いただけでも感謝だが、なお豊かな信仰生活を送ろう。